



【9月7日（水）】

- ①女川町での取り組み「果樹園 CAFÉ ゆめハウス」を視察／講話
- ②女川町の仮設住宅、女川駅、シーパルピア女川、石巻市の大川小学校を見学

①一日目、仙台空港に着いて向かったのは、自然豊かな場所にある果樹園 CAFE「ゆめハウス」です。代表の八木純子さんは女川の復興に燃える熱い方で、彼女に惹かれてインターンをしている東北大学の学生もいました。地元のおばあちゃんたちが作る料理は家庭の味でとてもおいしいものでした。

②次に向かったのは 3 階建仮設住宅です。コンテナを用いたデザイン性・機能性ともに優れた仮設住宅だそうです。そこはもともと野球場として使われており、得点板などが震災前のまま残されていました。洗濯物が干されていたり、車が走っていたりと、そこでは今も確かに生活が営まれていました。そして、女川駅と、2015 年 12 月にオープンしたばかりの駅前商業施設シーパルピアに向かいました。シーパルピアは観光客向けという印象で、住民の方々の利用者が少なく、地域のニーズに応じた復興の難しさを実感しました。さらに、石巻市の大川小学校跡地を見学しました。生き残った少年が書いた文章には、この災難を後世に語り継いでいきたいという想いが綴られていました。



▲果樹園 CAFÉ ゆめハウスにて



▲大川小学校にて

【9月8日（木）】

- ③実践家レクチャー「石巻における災害復興支援」
- ④語り部と歩く 3.11
- ⑤津波伝承アプリを使った防災まち歩き
- ⑥石巻版クロスロードゲーム

二日目は、公益社団法人「みらいサポート石巻」が提供する震災伝承プログラムに参加しました。

③まずは、「みらいサポート石巻」専務理事・中川政治さんの講演を拝聴しました。中川さんは国際ボランティアも経験された方で、ボランティアにおいては自発性が特に大事であることを指摘されていました。

④「語り部と歩く 3.11」では、語り部の高橋匡美さんに故郷を案内していただきました。訪れた場所は、1m を超す雑草がたくさん生い茂る野原でしたが、震災前は立派な町だったそうです。高橋さんの母校の校歌を聴かせていただいたとき、思わず涙がこぼれました。

⑤防災まち歩きは、震災前の様子を現在の町に重ね合わせることができる AR アプリを使って行われました。語り部さんに震災前後のまちのことを教えていただきました。

⑥石巻版クロスロードゲームは、震災直後のある状況で自分がどう判断するかを考えるとというものでした。学生どうして話し合った後、実際に同じよう



▲みらいサポート石巻にて



▲語り部と歩く 3.11



▲学んだことを発表



な状況を経験された方の話を伺いました。いざその状況になったときの判断を話し合いだけで考えるのは難しいと感じました。

【9月9日（金）】

⑦石巻市蛇田地区の復興公営住宅を見学

⑧東北大学災害科学国際研究所を見学

⑦最終日、蛇田地区の復興住宅を見学しました。近くに多くの商業施設があり、利便性が高いため蛇田地区は非常に人気があるそうです。復興住宅には共有の家庭菜園があり、広くてきれいな公園もありました。

⑧東北大学災害科学国際研究所では、研究所の説明を受けた後、3D映画「大津波 3.11 未来への記憶」を視聴しました。東北大震災の被害が 3D 映像で記録されており、とても迫力がありました。



▲夜は宿舎で振り返り

今回の東北研修で、震災から 5 年と半年が経ってもまだ整備がされていない場所が多く残されていることを知りました。また、大きな被害を受けた人々が互いに結びつき、支え合って生きているのを見て、人と人のつながりの大切さを強く感じさせられました。